

## 第9回町田市中心市街地整備計画策定検討委員会 会議録要旨

### 【会議日時及び場所】

日時 2016年2月3日(水) 15:00~17:00  
場所 町田市役所 市民協働おうえんルーム

### 【出席者】(敬称略)

#### ■委員

真野洋介、西田司、大熊省三、清水哲夫、村上卓也、三輪律江、柳沢厚、岩崎俊男、野澤滋享、石井幸隆、大塚信彰、米増久樹、山口拓、西村靖生(上田敬生 代理)

#### ■事務局

都市整備担当部長、地区街づくり課、企画政策課、未来づくり研究所、文化振興課、産業観光課、建設総務課、道路補修課、都市政策課、交通事業推進課、住宅課、公園緑地課、UR都市機構

■関係者 2名(JR東日本1名、町田市中心市街地活性化協議会1名)

■傍聴者 1名

### 【資料】

資料1 中心市街地整備計画策定の進め方とスケジュール  
資料2 第8回検討委員会意見のまとめ  
資料3 中心市街地整備計画案  
資料4 中心市街地整備計画案(概要版)

### 【議事要旨】

- ・ 「第8回町田市中心市街地整備計画策定検討委員会」での各委員の提言を踏まえて作成した整備計画案について、確認した。
- ・ 3月に行う市民意見募集について報告を行った。

### 【会議内容】

#### 1 開会挨拶

町田市都市整備担当部長から挨拶

#### 2 議事

- (1) 整備計画の取りまとめに向けた進め方と前回(第8回検討委員会)の振り返り
- (2) 整備計画案について
- (3) 市民意見募集について

- (1) について、委員長から説明
- (2) について、地区街づくり課から説明
- (3) について、地区街づくり課から説明

■ 意見等

【整備計画案について】

(委員)

- ・すでに市が中心市街地で展開している施策で、地権者との交渉や合意などにより進捗が見られないもの、例えば文学館通りの整備計画等については、まずは実証実験を行うなど出来ることから取り組んでも良いのではないかと。
- ・町田市中心市街地活性化協議会（以降、「中活協」）が取り組みを進めるに当たり、資金面や体制に課題がある。

(委員)

- ・セットバックせずに建てられたマンションなどが増えてきているので、建設される前に市が先手を打って指導に取り組んでほしい。

(委員)

- ・芹ヶ谷公園が今後どうなっていくのかが気になっている。また、シバヒロは平日利用者が少なくもったいないと感じている。シバヒロ、芹ヶ谷公園、子どもセンターをうまく広域的に連携・活用してにぎわいを生み出せると良い。

(事務局)

- ・芹ヶ谷公園は樹木伐採などの整備を先行して行うほか、2016年度は公園再整備基本設計と一部の社会実験を予定している。
- ・子どもセンターの活用については、中心市街地の立地だからこそできる他施設との連携などを検討していきたいと考えている。
- ・シバヒロの活用については、市民にとっての「憩いの場」としての有効な活用方法を今後考えていきたい。

(石井委員)

- ・具現化しやすい計画から取り組んでほしい。そういう意味では、文学館通りの整備に期待している。シバヒロはアクセスが課題なので、バス交通や周辺環境の改善を考えるべきである。

(事務局)

- ・バスルートの改善検討というところまでは行っていないが、シバヒロ～駅間のアクセスについては課題として認識している。

(委員)

- ・「みんなの計画・行政の支援」という言葉があるように、市民の役割と行政の役割がある。本計画書には中活協の役割が多くあるが、現体制ではやれることに限界がある。第三者のタウンマネージャーのような存在が専従で必要だと思う。

(委員)

- ・プロジェクトを進めるにあたって、資金面での課題については、中小企業基盤整備機構の支援プログラムを活用してはどうか。
- ・プロジェクト9「町田発アート・カルチャーを楽しむプロジェクト」では、計画書記載の場所以外でも拠点づくりを進めてほしい。また、各団体や個人が横の連携ができるような体制づくりを考えてほしい。

(事務局)

- ・計画の進め方については、今後も引き続き協議を進め、より良い体制となるようにしたい。

(委員)

- ・（仮称）“夢”まちプロジェクト推進会議はどのように発足していくのか。

(事務局)

- ・（仮称）“夢”まちプロジェクト推進会議は、市と中活協で各プロジェクトを全体的に後押しする組織として考えており、詳細は今後各プロジェクトの状況や、市と中活協との意見交換を進め、決めて行く予定である。

(委員長)

- ・10個のプロジェクトの旗を誰が振るかが大事。プロジェクトによって地元、鉄道会社、行政等、旗振り役が異なってくるだろう。

(委員)

- ・小田急としては、バリアフリーなど鉄道関連の施策以外にも、開発事業者という立場でまちづくりに積極的に参加していきたいと考えている。
- ・プロジェクト10「まちの魅力情報発信」では駅前を情報発信の場と位置付けられており、小田急としても協力できると思う。
- ・計画の進行管理はどうやっていくのか。

(事務局)

- ・計画書の中で指標と目標値を掲げており、これをもとに状況を把握していく。
- ・第三者の意見をどのように取り入れていくかについては、今後検討する。

(委員)

- ・文学館通りは、併せて沿道の賑わいづくりもできると良い。
- ・セットバックについては、地元住民だけではどうにもならないので、現在建設中の建物等に対して市から指導をしてほしい。
- ・中心市街地から消防署が移転したが、住民からは不安の声が上がっている。

(委員)

- ・各プロジェクトの「当面の主な取り組み」は、スケジュール感があいまいなため、対象期間を2年からせめて3年に延ばし、「1年目は〇〇」のように、節目を付けてしっかりと示してほしい
- ・数年前にセットバックや地区計画に向けて議論を重ねており、市が対策を進めているとの認識だったが、その後の状況を教えてほしい。
- ・中心市街地に住宅が出来ることをどう受け止め、建設する際にどのような条件を付けるかが大切である。

(事務局)

- ・セットバック等の検討については、駐車場施策等の関連部署と連携して、地域に入っていきたいと考えている。

(委員長)

- ・開発が進む中で市街地への誘導など都市計画をつくることは非常に難しいが、関係部署が連携してぜひ取り組んでほしい。

(委員)

- ・中心市街地に引き込む市民の年代や定住への誘導方策などを検討し、その住宅政策と連動させてまちづくりに取り組むべき。
- ・P76 指標で「暮らしやすさ満足度」について問いかけているが、「暮らしやすさ満足度」とはそれぞれによって捉え方が異なり、フィルターがかかる。
- ・P57「生活を支える機能の導入推進」について、町田市が導入したい機能や誘導方法について検討していくべきである。
- ・プロジェクト3の内容が漠然としている。子どもセンターの基本構想を立てた際、子どものための施設という観点だけでなく、町田市の一施設として幅広く活用する位置付けだった。
- ・プロジェクト3はシバヒロ、子どもセンター、芹ヶ谷公園のみを活用して取り組むまちづくりではないので、図書館などの他の周辺資源も活用したり、プロジェクト8の若い世代の活躍の機会づくりと連携させてはどうか。

(委員長)

- ・具体的な施策があれば盛り込むべき。そうしないと絵に描いた餅で終わってしまう。
- ・指標については、色々な尺度の出し方があるので、今後も考えて行く。

(委員)

- ・地元組織、コーディネーターをどう継続的に動けるようにするかが一番の課題。ヒト・モノ・

カネが必要になるので、それらについても議論していくべき。

- ・さまざまな仕掛けや経済支援が必要になるので、例えば駐車場収益を活用するなどの策もある。
- ・プロジェクト8「様々なライフスタイルを支える多機能な場を育む」であるように、まちの在り方、人の多様性は非常に重要。その多様性を生み出すための具体例は今後しっかり議論してほしい。

(委員)

- ・交通の観点から、指標に設定しているバス利用は高速バスだけでなく地元のローカルバスもある。
- ・プロジェクト1、4、5に関しては、交通動線の誘導なども検討する必要がある、他のプロジェクトとも関連性が高い。
- ・世代別の将来イメージ（特にアクティブシニアの視点）が本計画書後半にあまり反映されていないので、今後の議論において忘れないでほしい。

(委員長)

- ・ローカルバスについても、今後指標として取り入れることを検討する。
- ・各プロジェクトをそれぞれ進めるのではなく、関連性の高いものはリンクさせながら取り組む。

(委員)

- ・計画書全体を通じて見ると、福祉に関する点が少し足りないと感じる。
- ・対外的に町田をアピールでき、まちを知り尽くしているタウンマネージャー、もしくはインフォメーションセンターのコンシェルジュのような人が必要。
- ・学生は大きな資源。町田はもともと学生が多く魅力あるまち。人的資源をうまく活用し、中心市街地でできる低予算イベント（星空映画館等）を重ねて活性化につなげるべき。

(副委員長)

- ・計画書の中身や計画への要望も重要だが、「計画に取り組む一員になりたい」と思うような、担い手や仲間を増やし活動を拡大していくことが大切。今後は「つくる計画」ではなく、「実践していく計画」にしてほしい。

#### 【市民意見募集について】

(事務局)

- ・本計画書概要版を使用し、3月下旬から市民意見募集を実施予定。市民目線のニーズを取り入れて取り組みを進めて行く。
- ・市民意見募集資料は市民センターやまちなかでの配布に加えて、幅広い年代から抽出した市民約3000人に郵送予定。
- ・設問項目は、現在の中心市街地への印象や利用状況、計画の内容について想定。

#### 【その他】

(委員長)

- ・今回頂いた意見を受けての、計画書への修正は委員長に一任していただく。
- ・市長報告、市民意見募集などを経て、2016年6月に計画書を公表するスケジュールで進めていく。

(事務局)

- ・これまでのまちづくりの進め方に疑問を感じており、新たな手法を考えるべく計画を策定した。委員からの指摘や住民からの意見を真摯に受け止め、計画に取り組みたい。
- ・完了目標年の2030年度には、市民から満足の声がかかるように尽力したい。

以上